

新球場建設の経過と今後の経営課題に関する研究～広島新球場を例にして～

A study of the progress and the management issues of the new stadium construction.
～ on the case of Hiroshima new stadium ～

1K04B097-9

佐川 雅子

指導教員

主査 木村和彦先生

副査 原田尚幸先生

＜緒言＞

近年日本の球場ではボールパークを意識した改修工事、命名権や指定管理者制度の導入など、施設・運営に関して多くの面で変化が見られる。その背景にはメジャーリーグへ移籍する日本人選手が増え、日本のメディアで大リーグが取り上げられることが増え、以前ほとんど見る機会のなかったメジャーリーグの球場を、毎日と言っていい程目にするようになったことも関係しているように思われる。

本研究では、日本の球場がこうに変化しつつある中、2009年プロ野球開幕に向けて新球場を建設する広島市へのインタビュー調査及び、新球場に関する文献・資料研究を行う。そしてこれまでの建設経過を把握した上で、運営や球団との関係、設備や地域に及ぼす影響等の視点から新球場のあり方を検討する。さらに、今後の新球場における経営課題を探り、観戦者増加や地域活性化などへ及ぼす影響とその可能性を検討することを目的とする。

＜方法＞

新球場を建設する広島市にインタビュー調査及び文献資料研究を行うことで新球場建設の経過を把握する。

さらに、2004年の東北楽天ゴールデンイーグルスの誕生に伴って、宮城球場の営業権と施設使用権の管理占有権を所持し、球場運営に関してユニークな取り組みをしている楽天野球団にもインタビュー調査を行う。

広島市と楽天野球団の調査結果を比較し、その違いから新球場建設について今後の経営課題を導き出す。

＜広島新球場の施設概要と建設経過＞

広島新球場はJR広島駅から徒歩でアクセス可能な場所に建設される。球場の様子は新幹線などのJR車窓から見る事が出来、乗客への広島のPRとなることが期待される。グラウンドは大リ

＜まとめ＞

本研究を通じて、新球場は何より観客のことを考えて建てられるべきだと感じた。運営に関しても同様で、どうしたら観客に満足してもらうことが出来るかという点を重視して運営されるべきである。このように全ての根底に“観客を楽しませること”を意識して作られた球場こそがファンに愛され、地域に深く根付く球場と

ーグと同様に、内外野とも天然芝張りである。また、観客席には砂かぶり席や芝生席、パーティフロアなど多彩な席が用意されており、観客は観戦スタイルに合わせて選ぶことが可能となる。

以上のように新球場の施設に纏わることはほぼ決定している。しかし、運営面では指定管理者、市によって決められる新球場の条例、命名権の売却先など未決定事項が多数ある。これらが決まって初めて広島新球場がどのような球場になるかが見えてくるだろう。

＜宮城球場の施設概要＞

宮城球場は”ボールパーク”をコンセプトに掲げており、観客が一日中楽しめるように毎試合複数のイベントを開催するなどたくさんの工夫がされている。また、広島新球場と同様に砂かぶり席、フィールドシート、ウィング席など多様な席が設けられている。

宮城球場の運営は管理占有権を所有している楽天野球団が行っている。管理占有権とは100%の施設使用権と営業権をさし、球場運営のすべてを楽天野球団が行うこととなる。これにより、イベント事業やスポンサー事業、地域密着活動などにおいて、他球場では真似出来ないような幅広い様々な取り組みが行われている。

＜新球場建設における今後の経営課題＞

インタビューと文献・資料研究を用いて、広島新球場と宮城球場の施設面や運営面について比較分析した結果、下記の①～⑤を広島新球場の施設経営の今後の課題として導き出すことが出来た。①新球場運営にあったってのコンセプトを明確にし、それに沿って一貫性のある球場作りを行うこと。②施設使用権・営業権を獲得すること。③新球場の改修工事を毎年行うこと。④命名権契約を長期で結ぶこと。⑤イベント・地域密着活動によるファン作りとチーム強化をおこなうこと。

なるのではないだろうか。そしてこの様な“観客を楽しませること”を中心に作られ、運営されている球場こそ、筆者が本研究を通して検討した結果辿り着いた新球場のあり方である。

しかし、新球場建設に関しては課題が多くあり、それらを解決することは容易ではない。課題を解決することで初めて、すべての観客に楽しんでもらえる魅力に溢れた球場となるはずである。